

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

「水都おおさか森林の市2012開催」 ～大川端で森林浴!!木にさわって あそんで、たのしんで～



『大川端で森林浴!! 木にさわって、あそんで、たのしんで』

【計画部 指導普及課】10月7日(日)、近畿中国森林管理局及び毛馬桜之宮公園において、「水都おおさか森林の市2012」を開催しました。当日は好天に恵まれたこともあり、約1万人の来場者で賑わいました。

「森林の市」は、森林・林業及び水資源に関わる行政団体や民間団体、ボランティアスタッフとして地元住民の参加・協力により開催してきたイベントで、今年で26回目となります。

今年のテーマは「大川端で森林浴!! 木にさわって、あそんで、たのしんで」をかかげ、都会の真ん中で森林や木を感じる空間を演出し、実際に木にふれることで木の良さを知ってもらい、森林・林業の大切さや木材利用の重要性について理解を深めていただきました。

近畿中国森林管理局ブースでは、「木を上手に使ってエコ活動」をテーマに木材利用、木育、国有林野事業の紹介などを実施しました。

薪ストーブのコーナーでは、薪ストーブの展示のほかに、お客さんの前でピザや焼き芋など作って配付するPR活動を行ったところ、長蛇の列ができる人気コーナー

となりました。

地元材である「おおさか河内材」を使った積み木コーナーでは、小さな子供たちが上手に積み木の作品を作り、夢中で遊ぶ様子が見られました。また、子供たちの保護者からは、「木の積み木はさわり心地がよく、ぬくもりがあり、色もきれい」「子供には木のおもちゃを与えたい」などの声が聞かれ、木の良さを紹介することができました。

「水源林」ジオラマ作りでは、木の皮や草の根・水苔などをボンドでくっつけて森林と水との関係性を表現したジオラマを作りました。絵本の読み聞かせ・エプロンシアターでは、絵本やエプロンシアターの物語にたくさんの子供たちが引き込まれていました。

その他会場内では、つるかご作りや丸太切り体験、椅子作りや竹とんぼなどの木工工作のコーナー、竹粉碎機やロケットストーブなどの実演コーナー、里山でとれた果物や野菜・木製品・地域の特産品をなどの販売コーナー、キッズボートやドラゴンボートの水上体験コーナーなど58の出展団体による様々なブースが並び、子供から大人まで楽しめるイベントとなりました。

来場者からは、「会場が木の香りに包まれていて癒されました」「普段木に触れる機会が無いのでとても楽しめました」「間伐材を使う事が森を守ることにつながるとよく分かりました」「自然や森林の大切さなどよく分かりました」などたくさんの声があり、盛況のうちに終了しました。



丸太切りに挑戦！



大盛況！ 子供木工教室



つるかご作り教室



体験！キッズボート



樹木当てクイズ

平成24年度 国有林モニター会議の開催

(第2回・山口県)

【企画調整室】 近畿中国森林管理局では、国有林を開かれた「国民の森林」とするよう取り組んでおり、国民の皆さまのご意見やご要望を国有林行政に反映させるため、管内に在住で公募により選出した77名の方に「国有林モニター」になって頂き、近畿中国森林管理局の取組に関する情報提供やモニター会議、アンケートなどを行っています。

10月17日(水)、国有林モニター会議(第2回)を開催し、山口県内に所在する国有林の現地見学及び意見交換会を行いました。当日は、朝から雨が降りしきる中での現地見学でしたが、車内での現地の管理を担当する徳地森林官による国有林の管内概要の説明や山口県の観光案内を受けながら、滑山国有林(山口市)へ到着しました。

はじめに、
※1 保護伐実施箇所と低コスト造林試験地を見学しました。
※2 低コスト造林による植



保護伐・低コスト造林試験地見学の様子

付の実演では、国有林モニターの方々に興味を持っていただくとともに、「セラミック苗などによる低コスト造林が民有林へ普及し、豊かな森林が造られることを期待します」といった励ましの言葉をいただきました。

続いて、路網・高性能林業機械を効果的に組み合わせた作業システムによる列状間伐地の見学では、作業道での間伐材を使用した丸太組土留工や※3 シスイエース、間近で見るプロセッサ等(高性能林業機械)に驚きや感心を持っていただきました。

また、毛利元就の「三本の矢」の教えにちなんだ「三本杉(森の巨人百選)」などを見学した後、意見交換会を実施しました。意見交換会では、当局の取り組みや森林・林業行政への要望など、次のような意見が寄せられました。

- ・ 民有林への森林整備推進等に向け積極的な働きかけを行ってほしい。また、国土の7割を占める森林を管理するうえで、もっと予算確保に努める必要がある。
- ・ 近年、異常気象による土砂災害などが多発しており、これまでの予防治山事業に対する考え方を見直す必要がある。
- ・ 森林共同施業団地のような民有林と国有林が連携して、共同で施業する取組が今後一層必要である。

- ・ 外国資本による森林買収について、水源地の保護等の観点からも一層の規制策に取り組んで欲しい。
- ・ モニターアンケートの結果を反映した森林保護や森林整備を行って欲しい。
- ・ マスコミへの取材要請を積極的に行い、一般市民が森林に関心を持てるような情報発信や機会を作る必要がある。また、ホームページなどは見てもらえるような努力と工夫が必要。

今回の会議で得られた貴重なご意見・ご要望を今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めていきたいと考えています。



意見交換会の様子

*用語の解説

※1 保護伐・・・モザイク状に2ha以下の伐採地（伐区）を配置する伐採方法

※2 低コスト造林・・・^{じでしら}地拵えや下刈回数の省略化によるコスト削減を図る造林方法

※3 シスイエース・・・間伐材を使用した簡易横断溝

安全管理研修を実施

～労働災害の未然防止を図る～

【総務部 総務課】 10月31日（水）～11月2日（金）、森林技術センター等（岡山県新見市）において、安全管理研修を実施し、各森林管理署等から研修生12名と森林技術センター職員1名（聴講）の13名が受講しました。

この研修は、経験の浅い森林官等の職員に対して、労働災害の未然防止を図るため、労働安全管理等に必要知識を習得させる目的で、平成23年度から行っています。

初日は、冒頭に稲葉職員厚生課長から安全管理の徹底について、当森林管理局の災害分析結果（平成6年度以降発生事例65件）を交えての講義を行いました。

次に、林業・木材製造業労働災害防止協会所属の陶山芳伸氏（安全管理士）から、現場作業における安全管理について講義を受けました。特に林業のリスクアセスメント導入、伐木作業時の「指差し呼称」の重要性や林内作業車の走行時の注意点などについて力点を置いた講義が行われました。

最後に、山下安全衛生係長から、職場における労働安

全衛生管理について、根拠法令等、安全管理の必要性、安全対策（労働災害防止計画（5カ年）、安全点検、安全衛生委員会、安全教育）、健康診断など

についての講義を行いました。

2日目は、森林技術センターの元山副所長から、チェンソー、刈払機の



刈払機の目立実習

構造と刃物の取扱方法について講義を受けた後、3班に分かれてチェンソーの目立て、腰鉤の研ぎ方、刈払機刃の目立て実習

を行いました。各班の講師は、森林技術センターの基幹作業職員が担当し、短時間ではありましたが、実物に触れながら技術の習得に努めました。

午後からは、^{いりかいやま}入開山国有林（新見市）で、高性能林

業機械を使った伐木造材及び搬出の作業現場において、株式会社戸川木材社長から説明を受けました。研修生の中には、初めて見る高性能林業



高性能林業機械・作業現場見学

機械の能率性に驚きを隠せない状況で、興味深く見ていました。

3日目は、3班に分かれ、3件の労働災害事例について、災害原因の分析と災害防止対策のグループ討議演習を行い、最後に各班から発表を行いました。

いつもの研修とは違った場所で、講師も現場で実際に



グループ討議の様子

作業をされている職員からの話が聞けたことから、現場作業での指導及び監督業務に活かされることを期待しています。

地域ニュース

森の巨人たち百選 桃木峠の大杉観察会を開催

～秋晴れの中、大杉を訪ね自然観察～

【福井森林管理署】10月21日(日)、経ヶ岳^{きょうがたけ}国有林(大野市)^{ももきとうげ おおのぎ}にある桃木峠の大杉を訪ねる観察会が、桃木峠の大杉保全協議会の主催で開催されました。「スターランドさかだに」に集合した参加者30名を前にして、藤堂勝義会長が「大杉を守ることは自然を守ること、自然を守るとは環境を守ること、環境を守るとは地球を守ること、地球を守るとは私たちの命を守ることにつながります」と大杉を守る意義について挨拶があり、担当者からスケジュールの説明を聞いた後、準備したバスに乗って大杉に向かいました。バスで20分ほど走り林道で下車、ここから職員のガイドでヒヨドリバナやクロバナヒキオコシの花、ムラサキシキブやマユミ、サルナシの実などの



大杉と一緒に

の説明を受けながら大杉に到着しました。参加者は、大杉を見上げ「雪の中で苦労して育っていますね。」「大事に守っていききたいですね。」「このあたりは、自然の宝庫ですね」と大杉やこれを育む自然環境に多くの感動を得たようでした。職員から「この大杉は、大野市街の広範囲から望めます。峠にひときわ飛び出していてよくわかります。平成14年には福井新聞社の協力を得て、大杉の童話が作られ、大野市では、童話集を市内の各保育所、幼稚園に配布しています。」と説明を聞きました。3分ほどで白山(標高2702m)が望める位置に移動すると、遠くに白山がうっすらと眺めることができました。このあたりでは、ツルリンドウ、ツルアリドウシの赤い実を観察し、バスに戻り「スターランドさかだに」に移動しました。

ここでは、そば打ち体験を行い、自ら打ったそばに舌鼓を打ちながら楽



つるかご作り

しい昼食の一時を過ごした後、つるかご作り、苔玉づくり、木のはがき作りなど盛りだくさんのメニューを楽しみました。

参加者からは「地元において、大杉に行ってみたいと思っていたけれど、行けてよかった。白山も見え、紅葉の時期にもう一度行ってみたいです。」「いろいろな体験ができ、今日は、楽しい一日でした。」などの喜びの一言をいただきました。

森林ボランティアで地球温暖化防止に貢献

～長門峡国有林で森林吸収源対策～

【山口森林管理事務所】快晴に恵まれた10月19日(金)、山口市阿東蔵目喜^{ちゅうもんきょう}に所在する長門峡国有林において、山口県オールド・フォレスターの会(OF会)による森林整備活動が実施されました。

山口県OF会は森林管理署等の退職者で構成され、国有林をフィールドとした森林ボランティア活動を通じて国民参加の森林づくり活動に貢献している団体です。

今回、同会屈指の精鋭部隊[※]11名の参加を得て、「地球温暖化防止森林吸収源対策・第2弾」と銘打った「つる切り」作業を行いました。

作業現場は地形が急峻で足場が不安定な場所が多く、経験豊富なベテランといえどもかなり困難な作業になるかと思われました。

ところが…、流石はろうせいえんじゆくしょうじん老成円熟の匠人。心配は無用とばかりに鉋と鋸を巧みに使い分け、大小の蔓^{つる}を手際よく処理。現役職員の手本よろしく、見事、



つる切り作業中

無事に作業を終えることができました。

我が国では、京都議定書の温室効果ガス削減目標6%のうち、3.8%を森林整備によって確保することを目標としています。国有林においても森林吸収源対策として、平成2年以降に手入れが行われていない森林を対象に間伐などの保育作業を進めています。折しも、京都議定書の第1約束期間の最終年。目標達成に向け、計画的な森

林整備は無論のこと、ボランティアによる小さな作業を地道に積み重ねていくことにも大きな意義があります。爽秋の空の下、作業を終えたOB諸兄の笑顔は達成感に満ちていました。



「第13回^{もり}森林を考える岡山県民の集い」に参加

【岡山森林管理署】 環境の世紀にふさわしい森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図ることを目的に、10月20日(土)、「第13回^{もり}森林を考える岡山県民のつどい」が開催されました。

当日は絶好の天候に恵まれ、約3,500名(主催者発表)の来場があり、メイン会場での開会式では主催者挨拶の後、来賓として出席した近畿中国森林管理局長から「国有林と民有林の連携の重要性や、国産材の需要拡大等」を呼びかける旨の挨拶がありました。

また、基調講演では、気仙沼湾に注ぐ大川上流部へ植樹活動を続ける「NPO法人森林は海の恋人」 畠山重篤理事長による「森林は海の恋人～人の心に木を植える～」と題した講演が行われ、参加した300名からは、「良かった。」「身近に感じた。」等の感想が聞かれました。

駐車場に設営されたテント村では、木工品や環境緑化樹、花、地域特産物などが多数並び、当署からも木工クラフトやつるかご作りの体験コーナー等を行いました。

木工クラフトでは、職員が採取した松ぼっくり、ドングリ、丸太の輪切り等で子ども達が入れ替わり立ち替わり楽しそうに、やじろべえ



木工クラフト体験



つるかご作り

やカブトムシ、トンボ、置物等を作っていました。今年はつるかご作りに初めて参加した方が多く、職員は忙しそうに指導にあたっていました。

苗木の無料配布では、ブルーベリーとサクランボ2,500本を一人一本、希望苗木の配布を行いました。早い方は1時間前から並び長蛇の列が出来ていましたが、職員の手際もよく、スムーズに配布が出来ました。

当ブースに来られた方には大変喜んで頂き、「充実した日を送れました。来年も来ます。」と感想を述べられる方もおられ、ケガもなく無事に終了することが出来ました。

『走る森林教室』

～高性能林業機械による素材生産現場の見学～

【兵庫森林管理署】 10月24日(水)、神戸市を拠点として活動する「森林に親しむ会^{もり}」の会員20名が、宍粟市波賀町に所在する赤西^{あかさい}国有林の間伐事業実施箇所を見学しました。

「森林に親しむ会^{もり}」は、森林を楽しみながら健康づくりをしようと結成され、ボランティアで森づくりにも取り組んでいる団体で、今回は「走る森林教室」と題して、車内で「フォレストクイズ」を行い、現地見学と併せて森林・林業への理解を深めることを目的に開催されました。

最初に当署職員から、「山に作業道を入れながら、高性能林業機械を使って、効率的に木材を搬出する方法が主流になっていること」などの事業の概要を説明しました。

その後、事業者から、作業の様子を見せてもらいながら、伐倒から集材・造材作業までを丁寧に説明していただきました。

見学者は、木材の搬出現場を初めて見る方が大半であったため、伐



現場見学

採した木が地面に倒れた時の「ドォン」とした音に驚き、林業機械が手際よく木材を集め・切断する様子に感心していました。

また、現場作業員は20代が中心で、林業機械の普及により林業の現場に若者が増えていること等を説明されると、見学者の方からは「若い担い手が増えることは嬉しい!」「林業の機械化には驚いた!」など多くの感想、意見が聞かれました。

たくさんの意見交換があり、いつまでも機械が動く様子も見続けていたいような名残惜しい雰囲気でしたが、最後に、来年も作業の現場を見たいと感想をいただき見学会を終了しました。

地元の海岸林の大切さを実感

～小学生森林教室～

【石川森林管理署】 10月30日(火)、加賀海岸国有林において、加賀市立黒崎小学校5・6年生10名を対象に地元にある海岸林の歴史と役割について森林教室を行いました。この森林教室は黒崎小学校からの要請により、隔年実施しています。

森林教室ではまず、森林管理署の仕事について「公益

的機能の発揮」「地球温暖化防止」「林産物の供給」「国民参加の森づくり」など専門的な言葉を小学生にも理解できるように、森林官からわかりやすい言葉で説明しました。

つづいて、加賀海岸
国有林の歴史を展示した展示館へ移動し、昔の写真を見ながら、黒崎地域を砂の被害から守った飛砂との戦いの



大正2年 当初設置の砂防垣

歴史を学び、先人達の大変な労苦に対し熱心にメモを取っていました。子供たちに海岸の木がなくなった理由を尋ねると「風」「塩害」「火事」などいろんな答えが返ってきました。当時の記録では、江戸時代、大聖寺藩が造成した海岸林が廃藩とともに手入れを怠ったため、急速に海岸の木が無くなったことを説明すると、森林への手入れの大切さを実感していました。



熱心に聞き入る小学生

その後、林内を散策しながら、国有林が行っている松くい虫対策の説明や、自然に発生したマツの稚樹などの観察を行ないました。

約1時間の森林教室でしたが、子供たちからは松林があることで、風や砂の被害から自分たちが守られていることが解って良かったなど、色々な感想をいただき、国有林の役割が少しでも理解していただけたかなと思っています。

大台ヶ原ネット巻きボランティア活動を実施

【三重森林管理署】 10月20日（土）、大台ヶ原に隣接する大杉谷国有林で、公募により募集したボランティアにより、シカの樹皮剥ぎを防ぐために幹の部分にネットを巻く作業を行いました。遠くは静岡県からの参加者も含め、約20名のボランティアが集まりました。

シカがササを食べたため絨毯状になった箇所や、稚樹を守るため設置している小規模な区画をフェンスで囲う「パッチディフェンス」の説明を行いながら現場に到着し、ネットを巻き付ける作業に取りかかりました。リピーターの参加者もおられ、手際よく作業が進み、用意していた300枚のネットが1時間足らずでなくなっていました。

ボランティアの方は自分達の手で自然を守る思いとともに、「環境問題を考え直すきっかけになった。」「多くの人に実態を知ってもらい必要がある。」という声が聞かれ、今後も継続していくことが強く求められる活動となりました。



ネット巻き作業

第34回 さんべ祭り!

【島根森林管理署】 第34回「さんべ祭」が、国立さんべ三瓶青少年交流の家において10月27日（土）～28日（日）に開催されました。今年のテーマは「三瓶を満喫!」自然と笑顔でつながる感動体験。地域の人々と密接な連携のもと、三瓶山周辺地域の活性化を図ることが目的となっています。地元保育園・小学校・高校の生徒たちによる演奏等のステージ発表、地域の人たちによる模擬店や作品の展示、体験活動はてんこ盛り、さんべ夢ステージ、こども体験遊びリンピック、さんべ大鍋無料提供等多彩な催しがありました。当日は生憎の天候で、紅葉に彩られた「三瓶の秋」を満喫とまではいきませんでした。多くの来場がありました。

島根森林管理署からは、木工教室、パネル展示・説明、実体鏡実演、きのこ教室を行ないました。木工教室には、人がたえ間なく集まり、親子で作品作りを楽しんでいました。実体鏡実演では、三瓶山が立体的に見え、子供たちからは、「すごい!」との歓声があがっていました。

また、きのこ教室では、参加した方々は興味津々に説明に聞き入っていました。

パネル展示を通じて、森林の大切さ、間伐の必要性について啓発を行ないました。



木工教室



きのこ教室

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）

【11月の展示スケジュール】

11/12～11/16 人と自然（切り絵）【きりえ葉月会】

11/19～11/30 アルブル木工教室作品展【(有) アルブル】